現在、松江市は旧松江市時代の21地区から29地区となっていますが、合併前の旧町村においては旧松江市のような公民館運営の仕組みがあったわけではありません。旧松江市の取り組みを踏襲するようなかたちで、各地区において公民館を拠点として地域福祉を推進していくための仕組みづくりが進められています。

本書では、こうした松江市の地域福祉を紹介するわけですが、それを理解するためにもまずプロローグにおいて、各地区における公民館を拠点とした″対話と学び合い″の取り組みの意味を少し理論的に考察してみることにします。「松江市の地域福祉実践を理解するためのヒント」としていますが、やや抽象的な議論でもありますので、先に第Ⅰ部以降に目を通していただいてから、最後に読んでいただくほうがより理解が深まるかもしれません。

第Ⅰ部においては、市社会福祉協議会の職員による実践報告と松江市長からのメッセージがあります。松江市の個別具体的な地域福祉実践の状況について、地域福祉の推進の役割を担うそれぞれの担当者目線で、ソフトなタッチで報告しています。

第Ⅱ部では松江市の地域福祉にかかわってきた研究者により、松江市の地域福祉をそれぞれの観点から対象化した論考が収められています。必ずしも「対話と学び合い」という表現が用いられていない場合でも、随所にそのような地域における多様な取り組みをふまえての分析や評価と、それに対する各論者のこだわりの微妙な主張の違いを読み取っていただければと思います。

第Ⅲ部では、松江市と同じような人口規模で、地縁的な結びつきの強い大阪のＡ市との量的な比較調査の報告や、松江市での地域福祉実践に関する質的調査の記録を整理しています。

第Ⅰ部は「です・ます調」、第Ⅱ部第Ⅲ部では「である調」と、表現のみならず内容的にも硬柔おりまぜた構成にしております。関心のあるところから、読み進めてください。

本書は、松江市民の地域福祉実践のエネルギーと松江市行政および市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、公民館等のご協力のたまものとして出版することができました。

ここに感謝いたしますとともに、松江市の実践がますます元気になり、日本全国に、さらに世界へと広く伝えられることを願っています。

執筆者を代表して

上野谷加代子

松端　克文

斉藤　弥生